



「行政×鉄道×地域 SNS」で連携・地域をデジタルコミュニティの力で活性化

大東市・四條畷市にて地域 SNS アプリ 「ピアッツァ」の導入を 12月9日(水)より開始

大東市・四條畷市・JR 西日本と PIAZZA

with コロナ時代のライフスタイル定着をめざす



概要説明

四條畷市では、PIAZZA 株式会社（代表取締役 CEO: 矢野 晃平）、西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社（大阪支社長: 森川 国昭 以下「JR 西日本大阪支社」と、それぞれの強みを掛け合わせた地域コミュニティ活性化推進のため、連携協定を締結しました。

同様に大東市も連携協定を締結しており、2020年12月9日より PIAZZA 株式会社が開発・運営する地域 SNS アプリ「ピアッツァ」に「大東市・四條畷市エリア」が開設されます。

「ピアッツァ」は、身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換、不用品のやり取り、自治体の新着情報確認などを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのスマートフォンアプリです。新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大と影響の長期化が懸念される中、状況や変化に適応した社会活動を進行する新たなライフスタイルが求められています。このような背景の中、地域 SNS「ピアッツァ」と大東市・四條畷市・JR 西日本が、互いに連携・協力することにより、住民同士のつながりや地域コミュニティをより促進し、“人々が支え合える街”の形成をめざします。



【PIAZZA「大東市・四條畷市エリア」スタート概要】

- ・サービス開始日:2020年12月9日(水)
- ・利用方法:以下 URL よりピアッツァアプリをダウンロード後、メールアドレスなどを登録

URL : <https://app.adjust.com/bsujc9y>



■JR 西日本 近畿統括本部の取り組みについて

学研都市線の住道、野崎、四條畷、忍ヶ丘の各駅の情報を地域 SNS「ピアッツァ」内で発信し、駅ならではの地域に根付いた情報を提供していきます。

JR 西日本が連携した今回の「大東市・四條畷市エリア」のオープンは、大阪支社エリアとしては初ですが、同じ近畿統括本部のエリアでは 2019 年 7 月にオープンした神戸支社エリアの、「三ノ宮・元町・神戸エリア」や「東灘・灘エリア」での連携に続くものであり、これにあわせて PIAZZA 株式会社と JR 西日本 近畿統括本部との連携協定も締結しました。

PIAZZA 株式会社との更なる連携・協力を通じて、近畿エリアでの地域との連携を深め、関西都市圏ブランドの確立に向けた「住みたい、行きたい」沿線づくりを進めてまいります。

■PIAZZA 株式会社について

グローバルで進む都市化とともに、希薄化する地域内でのコミュニケーションやその受け皿となるローカルコミュニティが減少しています。「高齢化社会」や「暮らしの孤立化」などと合わせ、これらを起因とする社会問題が現在多くの場面で顕在化しはじめています。PIAZZA 株式会社は、地域の住民同士やそこで働くひとたちをつなぎ、ひとりひとりがより暮らしやすく、より生き生きとした暮らしを実現するために“人々が支え合える街を創る”というミッションのもと、地域の広場アプリ「ピアッツァ」の開発・運営や、コミュニティ施設の企画・運営をしています。

■地域 SNS アプリ「ピアッツァ」特徴

地域 SNS アプリ「ピアッツァ」は多くの No.1 タイトルを獲得!

- ・活発な地域交流型オンラインサービス(SNS/掲示板など) No.1
- ・信頼できる地域交流型オンラインサービス(SNS/掲示板など) No.1
- ・地元愛が深まる地域交流型オンラインサービス(SNS/掲示板など) No.1

※日本マーケティングリサーチ機構調べ:2020年3月期_ブランドのイメージ調査

その他、日本経済新聞、東京新聞、日経産業新聞などメディアに多数掲載

ピアッツァ URL:<https://www.lp.piazza-life.com/>

1. 地域への定着

先行導入エリア勝どき(東京都中央区)では、

- ・ 30~40代世帯の37%が利用
- ・ 総計16万以上の「人と人のつながり」を達成
- ・ 「教えて」に対しての地域住民の返答率累計88%



2. 2020年1～8月にて、全国アクティブユーザー数184%増加、50～60代への普及が進む、ビジネスユース400%増加
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000055.000016981.html>
3. 行政や自治体が公認するアプリ(日本国内40以上の提携実績)
4. アプリ内の活性度合いを数値化 Community Value®
 - ・ 各地域の住民同士のつながりの数や熱量を可視化。行政もKPIとして採用
5. コミュニティデザイナー(CD)の導入
 - ・ 地域ボランティアやママ・シニアを各地域内で採用し、アプリ内の活性化やリアルイベントなどの開催を行い住民同士の交流を促進
6. リアルなコミュニティ施設の運営
 - ・ 街のコミュニティ施設を自社で企画・運営。地域の広場アプリ「ピアッザ」と連携し、入会・利用促進や互いの登録促進となるハブを創出

問い合わせ

電話 072(877)2121 〈代〉

魅力創造室 氏名：川上 正 (内線 360)・川崎 有紀 (内線 362)